

終助詞における男性語と女性語

中村 純子

キーワード：終助詞、男性語、女性語、基本体、デス・マス体

要旨

本稿では終助詞に男性語と女性語の別があるのは使用者のイメージが語に刷り込まれた結果であると捉える。従って用法によって想定される使用者の性が異なれば同じ終助詞でも男性語・女性語が異なることになる。この立場から終助詞の男性語、女性語が基本体とデス・マス体においてどのような異なりを示すかを記述した。その結果、基本体とデス・マス体で男性語・女性語に異なりのない終助詞、異なりのある終助詞に大別された。異なりのある終助詞でも基本体とデス・マス体で性提示が全く異なる終助詞は見られなかった。

1. はじめに

日本語は女性語と男性語がはっきり区別できる言語であると言われる。言語における性差は主として音声、形態、語彙のレベルで見られる。最近では談話のレベルにも性差が見られるという報告もある。

終助詞は話者が男性か女性かを提示するのに有効な形式の一つである。しかしこの働きは福島(1993:10)も指摘するように発話に特定の終助詞を付加さえすれば話者の性が提示されるような単一的なものではない。「ぜ」のように常に話者の性を限定する終助詞はむしろ少なく、終助詞は接続の仕方、イントネーション、用法等によって男性語となったり、女性語となったりする。

本論では現代共通語の終助詞が基本体とデス・マス体ではその性提示に異なりのある終助詞があるということをもとにそれを記述することを目的とする¹⁾。日本語教育機関では通常、日本語学習者にデス・マス体の発話から教える。学習が進んで基本体の発話を教える際に、まず問題となることの一つに男性語と女性語の区別がある。デス・マス体と基本体における終助詞の男性語・女性語の振る舞いを記述することは日本語教育にとっても必要なことだと思われる。

なお、本論でいう男性語・女性語とは実際に男性、または女性によって使用されている語という意味ではない。男性らしいと感じる語、女性らしいと感じる語という意味である。これは「使用の実相を下敷きに形成される使用者のその語に対する感覚」²⁾なので主観的であり、個人差が少なからずあると思われる。本論では辞典・事典等における記述を一応参考とするが、最終的には論者の言語的直感で男性語、女性語を判断する。また、終助詞の中には男女両方の話者が想定されるものもあるが、それは汎性語として扱う。

2. 先行研究の記述にふれて

現代共通語の男性語・女性語の研究はポライトネス(円滑なコミュニケーションをはかるために話し手が聞き手にする配慮)³⁾の枠組みでなされているものが多い。ポライトネスには積極的ストラテジーと消極的

ストラテジーとがある。積極的ストラテジーは話し手が聞き手の「よく思われたい、仲間として扱われたい」という欲求を満足させることであり、消極的ストラテジーは話し手が聞き手の「自分の領域に踏み込まれたくない、迷惑をかけられたくない」という欲求を満足させることである。

レイノルズ（1985）は終助詞を断定と確認にわけ、それぞれ主張度の強いものから順番にならべた。断定は「ぞ、ぜ／さ、よ、わ」の順に主張度が強くなり、確認は「な、ね」の順に主張度が強くなるとしている。そして女性は主張度が強く、聞き手に判断を押しつけるような終助詞は使えないことを指摘している。つまり女性は消極的なストラテジーを破れないということである。

マグロイン（1997）は意味分析に基づいて女性語の「わ」が発話に付加されるとなぜやさしく女らしく聞こえるのかを考察している。マグロインによると「わ」の意味は「発言内容を感じて確認すること」にあるとしている。男性語の「わ」は下降調のイントネーションをともなって聞き手を無視しているのに対し、女性語の「わ」は上昇調のイントネーションをともなって聞き手に感動を分かちたいと働きかけているところに女らしさがあるとしている。そして「わ」の相手との心的距離をちぢめようとするところが積極的ストラテジーに結びつくとしている。

本論では男性語・女性語が男らしく聞こえたり、女らしく聞こえたりするのは当該の語が「男性によって使用されている」または「女性によって使用されている」と見なされているからという観点からこれを考える。語にはその語をよく使用する使用者のイメージが刷り込まれる。終助詞の付加された発話の男らしさ、女らしさも当該の終助詞が男性または女性によって使用されていると想定されているところから生まれたと考えるのである。従って同じ終助詞でも使われ方によって使用者の性別が異なると想定されれば、男性語となったり女性語となったりすることがありうるわけである。

そこでまず、述語を構成する要素に終助詞が付加した際、どのような表現が男性語・女性語と見なされるかを整理したい。デス・マス体、基本体の両文体について見ていく⁴⁾。

3. 終助詞の定義

終助詞の男性語・女性語を論じる前に、終助詞とは何かという問題がある。終助詞の定義は様々で、一致した見解はない。佐治（1957：24）は、「最も終助詞らしい終助詞——特別のしるしがないが、いつもそこで意味の切れるもののうち、上からの接続の比較的自由的なもの」として下記の助詞をあげている。

ね（え）、 な（あ）、 よ、 や、 え、 い、 さ、 とも、 ぞ、 ぜ、 わ、 か

本論では基本的には佐治の定義に従うが一部佐治の考えと異なることもあるので論者の考えを述べ、何を終助詞とみなすかを記す。

佐治では「の」が形式体言由来ということで排除されている。「の」は「のだ」の「だ」が省略した形と考えられるが、「のだ」に言い換えられない次のような例の「の」があることから「の」は終助詞として扱ってもいいと思われる。「こと」もすでに終助詞化しているとは思われるが、現代共通語のなかで使用が稀になってきていることもあり、ここでは考察の対象に加えない。

あそこにいるのが長女ですの

それいいんじゃないの

かわいいですこと

「かしら」は「知らぬ」という詞的な意味があるとして終助詞から排除されているが、現在その詞的な意味はかなり失われて、下記のように終助詞として機能していると思われる。

明日会社へ行けますかしら

また佐治が「最も終助詞らしい終助詞」としている「え」は現代共通語ではほとんど使われないので排除して考えたい。また、「い」は現代共通語では「だい」、「わい」、「かい」の形でしか用いられないこと、そのうち「わい」はほとんど使用されていないことからこれも排除して考えたい。

以上から本論では以下12の終助詞を「最も終助詞らしい終助詞——特別のしるしがないが、いつもそこで意味の切れるもののうち、上からの接続の比較的自由なもの」と見なし、考察したいと思う。なお、「わ」、「の」はイントネーションと用法により男性語・女性語・汎性語の別があるので、それぞれ別に記述する。なお、↑は上昇調のイントネーションを、↓は下降調のイントネーションを指し、その別が男性語・女性語の別と関係するもののみをとりあげる。独話になると汎性語となる終助詞もあるが、独話には通常、デス・マス体は用いないのでここでは考察の対象としない。従って「か」は「か↓」と「か↑」があるが、「か↓」は独話的用法と見なし、本論では「か↑」のみをとりあげる。また、「よ」は「よ↑」と「よ↓」があり、更に「よ↓」には微妙なイントネーションの違いにより男性語・女性語の別があるが、これは今後の課題として本論では「よ↑」のみを取り上げる。

ぜ、ぞ、な、さ、や、か↑、とも、よ↑、ね、わ↑、わ↓、の↑、の↓、かしら

4. 基本体とデス・マス体における終助詞の男性語・女性語

終助詞が基本体とデス・マス体で用いられるとき、その性提示に異なりがあるかどうかを付加する品詞別に見ていきたい。①動詞の終止形、②形容詞の終止形、③ a. 形容動詞の終止形、b. 形容動詞の語幹、④ a. 名詞+「だ」、b. 名詞止の順番で見えていく。終助詞は終止形以外にも付加するが、本論では終止形に付加した場合について整理する。また助動詞については稿を改めて論じたい。

① 動詞の終止形

動詞の終止形に付加する終助詞の男性語・女性語を文体別に論者の言語的直感で判断すると下記のようなになる。以下、男性語・女性語の判断は論者の言語的直感であることを断っておく。*は接続不可、?は不自然であるが使えないことはないと思われるものを示す。

基本体

男性語： 読むぜ、読むぞ、読むな、読むさ、読むか↑、読むとも、読むわ↓

女性語： 読むわ↑、読むかしら、読むの↓

汎性語： 読むよ↑、読むね、読むの↑

*読むや

デス・マス体

男性語： ?読むますぜ、読むますぞ、読むますな、読むますわ↓

女性語： 読むますわ↑、読むますかしら、読むますの↓、読むますの↑

汎性語： 読みますよ↑、読みますね、読みますか↑、読みますとも

*読みますさ、*読みますや

上記のように基本体とデス・マス体では性提示に異なりのある終助詞と異なりのない終助詞がある。それでは基本体とデス・マス体における男性語・女性語の異なりを詳しく見ていく。なお、男性語はM、女性語はF、汎性語はMFで表す。Φはその文体で使用できないことを指す。

基本体とデス・マス体で異なりのある終助詞を見ていく。基本体とデス・マス体で異なりのある終助詞は「か↑」「とも」「の↑」であった。「か↑」「とも」は基本体では男性語、デス・マス体では汎性語、「の↑」は基本体では汎性語、デス・マス体では女性語である。

M	MF
読む <u>か</u> ↑ (男)	読みます <u>か</u> ↑ (男女)
読む <u>とも</u> (男)	読みます <u>とも</u> (男女)
MF	F
読む <u>の</u> ↑ (男女)	読みます <u>の</u> ↑ (女)

また、「さ」は基本体では男性語だが、デス・マス体では用いられない。

M	Φ
読む <u>さ</u> (男)	*読みます <u>さ</u>

次に基本体とデス・マス体で男性語・女性語に異なりのない終助詞について述べていく。両文体とも男性語である終助詞は「ぜ」、「ぞ」、「な」、「わ↓」であり、両文体とも女性語である終助詞は「わ↑」、「の↓」、「かしら」である。また両文体で汎性語である終助詞は「よ↑」、「ね」である。

M	M
読む <u>ぜ</u> (男)	? 読みます <u>ぜ</u> (男)
読む <u>ぞ</u> (男)	読みます <u>ぞ</u> (男)
読む <u>な</u> (男)	読みます <u>な</u> (男)
読む <u>わ</u> ↓ (男)	読みます <u>わ</u> ↓ (男)
F	F
読む <u>わ</u> ↑ (女)	読みます <u>わ</u> ↑ (女)
読む <u>の</u> ↓ (女)	読みます <u>の</u> ↓ (女)
読む <u>かしら</u> (女)	読みます <u>かしら</u> (女)
MF	MF
読む <u>よ</u> ↑ (男女)	読みます <u>よ</u> ↑ (男女)
読む <u>ね</u> (男女)	読みます <u>ね</u> (男女)

「や」は終止形では形容詞型活用の活用語にしか付加しないので動詞にも「です・ます」にも付加しない。

Φ	Φ
*読む <u>や</u>	*読みます <u>や</u>

②形容詞の終止形

形容詞の終止形に付加する終助詞の男性語・女性語を文体別に記す。

基本体

男性語： いいぜ、いいぞ、いいな、いいさ、いいや、いいか↑、いいとも、いいわ↓

女性語： いいわ↑、いいかしら、いいの↓

汎性語： いいよ↑、いいね、いいの↑

デス・マス体

男性語： ?いいですぜ、いいですぞ、いいですな、いいですわ↓

女性語： いいですわ↑、いいですかしら、いいですの↓、いいですの↑

汎性語： いいですか↑、いいですとも、いいですよ↑、いいですね

*いいですさ、*いいですや

基本体とデス・マス体での終助詞の男性語・女性語には異なりが見られた。

以下、基本体とデス・マス体での終助詞の男性語・女性語を詳しく見ていく。まず、基本体とデス・マス体で異なりのある終助詞から記述する。

男性語の「か↑」、「とも」はデス・マス体では男女両方の話者が想定される。

M

MF

いいか↑ (男) いいですか↑ (男女)

いいとも (男) いいですとも (男女)

基本体で汎性語である「の↑」はデス・マス体では女性語である。

MF

F

いいの↑ (男女) いいですの↑ (女)

デス・マス体になっても、男性語・女性語に異なりのない終助詞もある。「ぜ」、「ぞ」、「な」、「わ↓」は両文体とも男性語、「わ↑」、「の↓」、「かしら」は両文体とも女性語、「よ↑」、「ね」は両文体とも汎性語である。

M

M

いいぜ (男) ?いいですぜ (男)

いいぞ (男) いいですぞ (男)

いいな (男) いいですな (男)

いいわ↓ (男) いいですわ↓ (男)

F

F

いいわ↑ (女) いいですわ↑ (女)

いいの↓ (女) いいですの↓ (女)

いいかしら (女) いいですかしら (女)

MF	MF
いい <u>よ</u> ↑(男女)	いいです <u>よ</u> ↑(男女)
いい <u>ね</u> (男女)	いいです <u>ね</u> (男女)

「や」は終止形では形容詞型活用の活用語にしか付加しないので「です・ます」には付加しない。「さ」も「です・ます」には付加しない。

M	Φ
いい <u>や</u> (男)	*いいです <u>や</u>
いい <u>さ</u> (男)	*いいです <u>さ</u>

③ a. 形容動詞の終止形

終助詞が形容動詞に付加する時はその終止形に付加するものと、語幹に付加するものに分かれるが、まず、形容動詞の終止形に付加する終助詞の基本体とデス・マス体の異なりを記述する。なお「や」は終止形では形容詞型活用の活用語にしか付加しないので形容動詞にも「です・ます」にも付加しない。

形容動詞終止形の基本体とデス・マス体における男性語・女性語の異なりは下記のようなになる。

基本体

男性語： 静かだぜ、静かだぞ、静かだな、静かだとも、静かだわ↓

女性語： 静かだわ↑、静かなの↓

汎性語： 静かなの↑、静かだよ↑、静かだね

デス・マス体

男性語： ?静かですぜ、静かですぞ、静かですな、静かですわ↓

女性語： 静かですわ↑、静かですの↓、静かですの↑

汎性語： 静かですとも、静かですよ↑、静かですね

基本体とデス・マス体ではその男性語・女性語に異なりのある終助詞が見られた。以下詳しく見ていく。

基本体で男性語の「とも」はデス・マス体では、男女両方の話者が想定される。

M	MF
静かだ <u>とも</u> (男)	静かです <u>とも</u> (男女)

基本体で汎性語、デス・マス体で女性語になる場合がある。これは「の↑」である。

MF	F
静かな <u>の</u> ↑(男女)	静かです <u>の</u> ↑(女)

基本体とデス・マス体で男性語・女性語に異なりのない終助詞もある。男性語は「ぜ」、「ぞ」、「な」、「わ↓」女性語は「わ↑」、「の↓」、汎性語は「よ↑」、「ね」である。

M	M
静かだ <u>ぜ</u> (男)	?静かです <u>ぜ</u> (男)
静かだ <u>ぞ</u> (男)	静かです <u>ぞ</u> (男)

静か <u>だ</u> な (男)	静か <u>です</u> な (男)
静か <u>だ</u> わ ↓ (男)	静か <u>です</u> わ ↓ (男)
F	F
静か <u>だ</u> わ ↑ (女)	静か <u>です</u> わ ↑ (女)
静か <u>な</u> の ↓ (女)	静か <u>です</u> の ↓ (女)
MF	MF
静か <u>だ</u> よ ↑ (男女)	静か <u>です</u> よ ↑ (男女)
静か <u>だ</u> ね (男女)	静か <u>です</u> ね (男女)

b. 形容動詞語幹

形容動詞語幹に付加する終助詞の基本体とデス・マス体での男性語・女性語の異なりは下記のようなものである。

基本体

男性語： 静かさ、静かか ↑
 女性語： 静かよ ↑、静かね、静かかしら

デス・マス体

女性語： 静かですかしら
 汎性語： 静かですか ↑、静かですよ ↑、静かですね
 * 静かですさ

基本体とデス・マス体では男性語・女性語に異なりが見られた。以下詳しく見ていく。

基本体では男性語、デス・マス体では汎性語には「か↑」があり、基本体では女性語、デス・マス体では汎性語には「よ↑」、「ね」、両文体で女性語には「かしら」があった。また「さ」は基本体では男性語であるが、デス・マス体では使用できない。

M	MF
静か <u>か</u> ↑ (男)	静か <u>です</u> か ↑ (男女)
F	MF
静か <u>よ</u> ↑ (女)	静か <u>です</u> よ ↑ (男女)
静か <u>ね</u> (女)	静か <u>です</u> ね (男女)
F	F
静か <u>かしら</u> (女)	静か <u>です</u> かしら (女)
M	Φ
静か <u>さ</u> (男)	* 静か <u>です</u> さ

④ a. 名詞+「だ」

終助詞が名詞に付加する時は名詞+「だ」に付加するものと、名詞に直接付加するものに分かれる。なお「や」は終止形では形容詞型活用の活用語にしか付加しないので名詞、名詞+「だ」にも「です・ます」にも付加しない。

まず、名詞+「だ」について文体別の男性語・女性語を記す。

基本体

男性語： 富士山だぜ、富士山だぞ、富士山だな、富士山だとも、富士山だわ↓

女性語： 富士山だわ↑、富士山なの↓

汎性語： 富士山なの↑、富士山だよ↑、富士山だね

デス・マス体

男性語： ?富士山ですぜ、富士山ですぞ、富士山ですな、富士山ですわ↓

女性語： 富士山ですわ↑、富士山ですの↓、富士山ですの↑

汎性語： 富士山ですとも、富士山ですよ↑、富士山ですね

基本体とデス・マス体では男性語・女性語に異なりが見られた。以下、詳しく見ていく。

基本体で男性語の「とも」はデス・マス体では男女両方の話者が想定される。

M

MF

富士山だとも (男)

富士山ですとも (男女)

基本体で 汎性語、デス・マス体で女性語になる場合がある。これは「の↑」である。

MF

F

富士山なの↑ (男女)

富士山ですの↑ (女)

基本体とデス・マス体で男性語・女性語に異なりのない終助詞もある。男性語は「ぜ」、「ぞ」、「な」、「わ↓」、女性語は「わ↑」、「の↓」、汎性語は「よ↑」、「ね」である。

M

M

富士山だぜ (男)

?富士山ですぜ (男)

富士山だぞ (男)

富士山ですぞ (男)

富士山だな (男)

富士山ですな (男)

富士山だわ↓ (男)

富士山ですわ↓ (男)

F

F

富士山だわ↑ (女)

富士山ですわ↑ (女)

富士山なの↓ (女)

富士山ですの↓ (女)

MF

MF

富士山だよ↑ (男女)

富士山ですよ↑ (男女)

富士山だね (男女)

富士山ですね (男女)

b. 名詞止

まず、名詞+「だ」について文体別の終助詞の男性語・女性語を記す。

基本体

男性語： 富士山さ、富士山か↑

女性語： 富士山よ↑、富士山ね、富士山かしら

デス・マス体

女性語： 富士山ですかしら

汎性語： 富士山ですか↑、富士山ですよ↑、富士山ですね

*富士山ですさ

基本体とデス・マス体では終助詞の男性語・女性語に異なりが見られるものもあった。以下詳しく見ていく。

基本体では男性語、デス・マス体では汎性語には「か↑」があり、基本体では女性語、デス・マス体では汎性語には「よ↑」、「ね」がある。

M	MF
富士山 <u>か↑</u> (男)	富士山です <u>か↑</u> (男女)
F	MF
富士山 <u>よ↑</u> (女)	富士山です <u>よ↑</u> (男女)
富士山 <u>ね</u> (女)	富士山です <u>ね</u> (男女)

両文体で女性語には「かしら」があった。

F	F
富士山 <u>かしら</u> (女)	富士山です <u>かしら</u> (女)

また「さ」は基本体では男性語であるが、デス・マス体には使用できない。

M	Φ
富士山 <u>さ</u> (男)	*富士山です <u>さ</u>

5. まとめ

上記の結果を【表1】にまとめた。以下【表1】を概観していく。4つの品詞、動詞、形容詞、形容動詞、名詞を通して基本体とデス・マス体で異なりがなかったものは、男性語では「ぜ」、「ぞ」、「な」、「わ↓」、女性語では「わ↑」、「の↓」、「かしら」であった。ただし、デス・マス体での「ぜ」の使用はあまり一般的ではない。

次に動詞、形容詞、形容動詞、名詞を通して基本体とデス・マス体で異なりがあったものについて記す。基本体では男性語、デス・マス体では汎性語であるものに「か↑」、「とも」があった。また「の↑」は基本体では汎性語、デス・マス体では女性語であった。

「よ↑」、「ね」は動詞、形容詞、形容動詞、名詞+「だ」では、基本体、デス・マス体を通して汎性語であるが、形容動詞の語幹と名詞に直接する場合は基本体では女性語、デス・マス体では汎性語となる。つまり「よ↑」、「ね」は基本体では汎性語・女性語の区別があるが、デス・マス体ではそれが中和する。

形容動詞の語幹に付加したり、名詞に「だ」を介さず直接する他の終助詞には「さ」、「か↑」、「かしら」がある。「さ」は基本体の動詞、形容詞、形容動詞の語幹、名詞に直接するが、デス・マス体では用いられない。「さ」が歴史的に断定の意味を含んでいたことと関係があるかと思われる。「か↑」、「かしら」、女性語の「よ↑」、「ね」は基本体では「だ」が省略されていると考えられる。それはデス・マス体になると顕現することから分かる。よく女性言葉では断定を意味する「だ」の省略が特徴的であると言われているが、

「だ」を介さずに名詞に直接する終助詞「か↑」は男性語である。また、「だ」を介する「わ↑」は女性語、「～だよ↑」、「～だね」も汎性語である（これについては個人差が大きいとは思うが）。男性語、女性語の別は「だ」の省略にあるのではなく、当該の語が「男性によって使用されている」または「女性によって使用されている」と見なされているからということの証左だと思われる。

また、基本体とデス・マス体で性提示が全く異なるパターン、つまり基本体では男性語、デス・マス体では女性語、または基本体では女性語、デス・マス体では男性語という終助詞は見られなかった。

【表1】 基本体とデス・マス体における終助詞の性提示の異なり

	基本体— デス・マス体 動詞	基本体— デス・マス体 形容詞	基本体— デス・マス体 形容動詞	基本体— デス・マス体 形容動詞語幹	基本体— デス・マス体 名詞+だ	基本体— デス・マス体 名詞止
M-M	ぜ、ぞ、な、 わ↓	ぜ、ぞ、な、 わ↓	ぜ、ぞ、な、 わ↓		ぜ、ぞ、な、 わ↓	
F-F	わ↑、の↓、 かしら	わ↑、の↓、 かしら	わ↑、の↓	かしら	わ↑、の↓	かしら
MF-MF	よ↑、ね	よ↑、ね	よ↑、ね		よ↑、ね	
M-F						
M-MF	か↑、とも	か↑、とも	とも	か↑	とも	か↑
M-Φ	さ	さ、や		さ		さ
F-M						
F-MF				よ↑、ね		よ↑、ね
F-						
MF-M						
MF-F	の↑	の↑	の↑		の↑	
MF-Φ						
接続 不可	や			や		や

6. おわりに

終助詞の男性語・女性語は用法の違いによっても異なりを示す。例えば次の例である。「がんばるぞ」は通常男性語だと思われるが、これを独話の場面で自分を鼓舞するために用いたら女性でも自然に使用できると思われる。また、母親が子供に向かって「今晚はごちそうだぞ」というような場面でも自然である。このような点を今後さらに詳しく記述していきたい。

【注】

- 1) 基本体とデス・マス体で男性語・女性語が異なることを指摘したのは鈴木（1989、1997）であるが、鈴木は発話行為の視点から主として動詞、助動詞について論じている。
- 2) 沖（1999:60-63）参照。
- 3) P. Brown and S. Levinson（1987:67）参照。
- 4) 本部隆明（1990）「男性語・女性語の研究」花園大学文学部国文学科卒業論文の整理を参考にした。

【引用文献】

- 沖 裕子（1999）「「ライス」と「ごはん」は同じものですか。」『月刊言語』第28巻第5号 大修館書店
- 佐治圭三（1957）「終助詞の機能」『国語国文』第26巻第7号 京都大学国文学会
- 鈴木 睦（1989）「いわゆる女性語における女性像」『近代』第67号 神戸大学近代発行会
- （1997）「女性語の本質—丁寧さ、発話行為の視点から」『女性語の世界』 明治書院
- 福島悦子（1993）「終助詞の機能—話者の性提示という観点から—」『東北大学留学生センター紀要』1
- マグロイン・花岡直美（1997）「終助詞」『女性語の世界』 明治書院
- 本部隆明（1990）「男性語・女性語の研究」花園大学文学部国文学科卒業論文
- Katsue Akiba Reynolds, Female speakers of Japanese. *Feminist Issues*, Fall 1985.
- P. Brown and S. Levinson, *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge University Press, 1987.